

南房総広域水道企業団中長期経営プラン 2017（平成 29 年度～令和 8 年度）
令和 4 年度施策評価報告書

1 基本理念と目標

「南房総の未来をつなぐ安全・確実で信頼される広域水道」という基本理念を実現するため、3つの基本目標を掲げ、具体的な施策を行う。

（1）水道水の安全の確保【安全】

適切な浄水処理の徹底及び水質管理体制の強化により、安全な水道用水を供給し続けることを目指す。

（2）確実な給水の確保【強靱】

自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても迅速に復旧できるしなやかな水道を目指す。

（3）供給体制の持続性の確保【持続】

水道を担う人材の確保と経営基盤の強化を図り、健全かつ持続可能な水道を目指す。

2 評価対象年度 令和 4 年度

3 取組結果

（1）基本目標 水道水の安全の確保【安全】

評価	件数	割合
a：達成している	7 件	77.8%
b：概ね達成している	2 件	22.2%
c：達成していないが進展している	0 件	0.0%
d：進展していない	0 件	0.0%
計	9 件	100.0%

1) 水源水質・水質事故への対応力の向上

① 水源水質監視 【評価：a 達成している】

長柄ダムの水質調査を毎月 1 回実施した。

② 水質事故発生に備えた体制整備 【評価：a 達成している】

利根川・荒川水系水道事業者連絡協議会等による情報連絡体制により、水質事故情報を速やかに入手することができた。

2) 適切な浄水処理の実施

① 浄水処理の徹底 [評価：b 概ね達成している]

粉末活性炭や凝集剤の注入率を適宜調整し、トリハロメタン等を概ね目標値内で管理した。

※トリハロメタン濃度は、週1回の頻度で実施した検査において目標値を3回超過したが、連続して目標値を超過することはなく、年間平均値は目標値以下に管理できていた。

② 新たな浄水処理方法の調査・検討 [評価：b 概ね達成している]

高塩基度 PAC による実処理試験を夏期と冬期に実施し、浄水薬品費に関する導入効果の検証を行い、検証結果を報告書に取りまとめた。

③ 送水水質管理の徹底 [評価：a 達成している]

水質検査を定期的に実施し、濁度や色度が目標値を超過することはなかった。

3) 水質管理体制の充実

① 水質検査体制の充実 [評価：a 達成している]

水質検査機器の点検整備による機能維持及び機器の更新を行い、水質基準項目自己検査数 46 項目以上を維持した。

② 水安全計画の着実な運用 [評価：a 達成している]

計画の実施状況の検証や水源リスク情報の見直しを行った。

③ 受水団体との意見交換 [評価：a 達成している]

夷隅・安房地区水道水質担当者連絡協議会を開催し、情報交換を行った。

④ 水質に関する情報提供 [評価：a 達成している]

水質検査の結果を、毎月公表することができた。

(2) 基本目標 確実な給水の確保【強靱】

評価	件数	割合
a : 達成している	6 件	60.0%
b : 概ね達成している	3 件	30.0%
c : 達成していないが進展している	0 件	0.0%
d : 進展していない	1 件	10.0%
計	10 件	100.0%

1) 施設・管路の維持管理

① 施設・管路の維持管理 [評価：b 概ね達成している]

点検整備計画による点検整備を予定どおり実施することができたが、浄水事故が2件発生した。

② 漏水防止対策 【評価：b 概ね達成している】

電気防食装置の点検及び管路の電気防食調査を実施し、漏水防止対策を行った。また大貫水管橋で自然腐食による漏水があったが、緊急工事により断減水被害が生じることなく補修できた。

③ 設備・管路情報等の管理 【評価：a 達成している】

設備台帳や工事台帳などの情報を適宜追加や修正を行い、適切な情報管理を行った。水道施設台帳を期限（令和4年9月）までに整備した。

2) 適切な更新の実施・災害対策事業の実施・危機管理体制の強化

① 管路の計画的な更新の検討 【評価：d 進展していない（事業の中止）】

将来的な事業統合を見据え、更新管ルートの詳細選定業務委託の執行を令和2年度に中止した。また、次年度以降の管路更新事業の取組は休止することとした。

② 浄水施設等の更新 【評価：b 概ね達成している】

当年度に予定していた工事は全て完成したが、令和2年度からの債務負担工事2件の内1件が繰越となった。

③ バックアップ機能の検討 【評価：a 達成している】

配水池容量の適正化を図るため、浄水池の新設に係る詳細設計を行った。

④ 房総導水路施設緊急改築事業 【評価：a 達成している（事業の完了）】

本事業は、房総導水路施設整備計画等検討連絡会を通じて、適切な事業の進行管理を行い、令和2年度末に計画どおり完了したため、令和2年度をもって「事業の完了」となった。

⑤ 事故時対応及び復旧作業の迅速化・⑥ 災害・事故時における連携強化

【評価：a 達成している】

⑤ … 小羽戸水管橋大型仕切弁の更新事業に併せ、管路事故時における復旧作業の迅速化のため仕切弁を追加設置した。

⑥ … 他団体及び民間業者との協定を継続し、迅速に応急復旧が行える体制を維持することができた。

⑦ マニュアルの充実と訓練の実施 【評価：a 達成している】

緊急時対応訓練及び応急給水訓練を実施するとともに、業務継続計画を策定した。

⑧ 渇水時の体制強化 【評価：a 達成している】

取水制限は発生しなかった。また、構成市町の貯水量の急激な低下もなく、円滑な水運用が図れた。

(3) 基本目標 供給体制の持続性の確保【持続】

評価	件数	割合
a : 達成している	5 件	41.7%
b : 概ね達成している	5 件	41.7%
c : 達成していないが進展している	1 件	8.3%
d : 進展していない	1 件	8.3%
計	12 件	100.0%

1) 経営の健全化及び効率化

① アセットマネジメントの向上 【評価：c 達成していないが進展している】

当企業団独自でアセットマネジメントの精度向上を図るとしていたところであるが、現在進めている統合協議の中での「施設整備計画」や「財政収支計画」の検討にとどまった。

② 経営健全化の取組 【評価：b 概ね達成している】

予算要求、予算査定及び予算執行を通じ、コストの抑制に努めた結果、流動比率以外は目標を達成することができた。

③ 資金管理・調達に関する取組 【評価：a 達成している】

企業債残高は目標値以内であり、有価証券等による資金運用も継続できた。

④ 民間活力の活用 【評価：d 進展していない（事業の終了）】

民間への委託効果の検証を行ったが、現状以上の民間委託の拡大を図る余地はないものと判断し、令和3年度をもって事業を終了した。

2) 広域化の推進

① 用水供給事業体の統合等の取組 【評価：b 概ね達成している】

用水供給事業の統合については、統合協議会、幹事会及び部会等に委員として出席し、用水供給事業統合の協議・検討を行った。

末端給水事業の統合については、当企業団開催の南房総地域水道連絡協議会において、夷隅及び安房地域の統合協議会事務局にオブザーバーとして出席依頼し、末端給水事業の統合に向けた検討状況について情報共有を行った。

② 用水供給事業の統合及び当企業団の解散に向けた準備 【評価：b 概ね達成している】

統合協議会での協議・検討を踏まえ、処理すべき事務・事項の見直しを行った。

3) 人材育成と活力ある組織づくり

① 効率的な組織体制と適切な定員管理 [評価：a 達成している]

職員の増減はなく、年度当初の計画どおり29名の現員を維持している。

事業運営に当たっては、会計年度任用職員を2名雇用することにより、現員を維持した上で安定した事業運営が図れるように努めた。

② 技術等の継承と人材育成 [評価：b 概ね達成している]

概ね研修計画に沿った形での職員の研修参加を図ることができたが、職員一人当たりの研修時間が13.8時間となり、目標である15時間を達成できなかった。

4) 構成市町等との連携・情報公開

① 構成市町等との連携 [評価：a 達成している]

5月に南房総地域水道連絡協議会、6月に夷隅・安房地区水道水質担当者連絡協議会を開催し、構成市町等と情報交換等を行った。

② 広報活動の充実 [評価：b 概ね達成している]

企業団ホームページを随時更新した。

施設見学は、新型コロナウイルス感染予防等の観点から受入れを中止した。

5) 環境対策

① エネルギー使用の合理化 [評価：a 達成している]

省エネ推進会議で省エネの状況報告や対策の検討を行うとともに、省エネ対策を実施し、電力消費量の目標を達成した。

② 資源の有効利用 [評価：a 達成している]

特定建設廃棄物はすべて再資源化し、建設廃棄物は再資源化が可能な廃棄物すべてを再資源化した。また、浄水発生土はすべてセメント原料として再資源化した。

○ 総合評価

評価	件数	割合
a：達成している	18件	58.1%
b：概ね達成している	10件	32.3%
c：達成していないが進展している	1件	3.2%
d：進展していない	2件	6.4%
計	31件	100.0%